

同窓会会長 吉田 和郎（同盟福音大垣・1999.3 信徒奉仕者卒）

7月15日（月・祝）に同窓会総会を金山のクリスチャンセンターで開催することができました。今回は、特別講座はありませんでした。

あいさつの後、自己紹介（少数精鋭6人）、賛美、祈りに続き、御言葉「第2コリント 12:9 わたしの恵みは、あなたに十分である。」を学び、議事に入りました。

例年通りの、「行事報告」や「会計報告」のあとで、同窓会総会の参加者が少ないことについても話し合いを持ちました。新しく塾を卒業された方への連絡も行き届いていないとの反省がありました。卒業生の住所やメールアドレスを以前は把握していましたが、最近の確認できていないので、運営委員の先生の了承を得て、情報を得ることを確認しました。

同窓会の会報「やっとかめ」は、現在、約50人に電子メール送信。25人ほどに郵送しています。なるべく、メール配信にご協力をお願いしたいと思います。

また、年会費 2,000 円の振込も少なくなり、財政状況は少しピンチです。会費の中から例年、神学塾に3万円を献金しています。皆様のご協力をお願いします。



塾のリトリートに合わせ例会開催⇒

リトリートに参加して、少し交流する程度ですが、ぜひ。

また、9月23日（祝）午後1時から金山教会で「塾フェス」が開催され、塾生と卒業生（代表）との交流会が企画されています。

同窓会 秋の例会 開催のお知らせ

と き 10月6日（日）午後6時～
 ところ あいち健康の森プラザ
 知多郡東浦町大字森岡字源吾山 1-1
 （電 0562-82-0211）
 費 用 夕食付部分参加…2200 円
 午後7時からの会議参加のみ…無料
 締め切り 参加する方は10月1日（火）までに
 事務局（大鐘朝博宅）Tel 090-5622-8489
 Mail : dai2colint520@sf.comufa.jp

事務局だより

OB会費（年2,000円）よろしく（毎年、同窓会から東海聖書神学塾へ献金しています。）

振込み先 〈郵貯銀行〉

名義 東海聖書神学塾同窓会

No. 12110-55510391

一般の銀行からは

店番：218 口座5551039

同窓会会計報告 18.4.1~19.3.31（円）

項目	収入	支出
同窓会費（延べ13人分）	26,000	
献金	10,000	
繰越金	29,937	
献金（神学塾へ）		30,000
総会費		1,512
事務通信費（やっとかめ他）		12,640
合計	65,937	44,152

《次年度繰越金 21,785 円》

美濃ミッション事件をふりかえる

＝市内信徒会50周年に際して＝ (吉田和郎)



私の住んでいる岐阜県大垣市には、市内信徒会という組織があります。以前にも紹介したかもしれませんが、1970年に長浜で交流ピクニックを行い、翌年から、大垣市内の教会の信徒が毎月集い、やがて50周年を迎えます。記念誌の編纂委員になっている私は、古い写真や記録を時々探して見えています。

当初は、6教会から始まりました(在日大韓、日本キリスト教会、カトリック、聖公会、ルーテル、日キ荒尾教会)。私の所属する同盟福音大垣は、当時は、まだありませんでした。

いろいろな思い出がありますが、大垣にある教会の集まりとして、やはり、美濃ミッション事件は、忘れてならない大きな出来事と言えらると思います。美濃ミッション事件は、戦前、戦中のことなので、市内信徒会ができるかなり前のことですが、今は、時々市内信徒会として、美濃ミッション教会の牧師との交流もはかり、反省させられることも多くあります。

いろいろな資料を見ている中で、「どうして戦争をはじめたの」という冊子の一部分「あるキリスト教徒校長と戦争」という資料を見つけました。これは、私が卒業した岐阜県立大垣農業高校の前身である安八農学校の校長であった佐藤信夫さんのことを、息子さんである佐藤明夫さんが書かれたものです。

信夫さんは、新渡戸稲造の影響を受けて東京帝国大学で農学を学び、同時に近くの海老名弾正師が牧会する本郷教会で1912年(明治45年)洗礼を受けました。謹厳実直な信夫さんは、各地の農業高校でも、禁酒禁煙をモットーとして宴会には出席しないという状況で、教師仲間からはずいぶん煙たがられ摩擦もあったようです。キリスト教ヒューマンイズムを説くと同時に忠君愛国論者であった彼はやがてキリスト教の盛んな群馬県の安中町に転任となり、安中教会の強烈な反戦・非戦論者の柏木義円師の影響も受けました。

そして1926年(大正15年)に岐阜県安八農学校(現大垣市)に38歳で校長として赴任します。しかし、治安維持法が猛威をふるいはじめ、行政もマスコミも侵略戦争への支援参加を煽りたてました。ミッションスクールに風当たりが強く、護国神社への参拝が強制されたりしました。

その中で美濃ミッション事件が起きました。1933年(昭和8年)美濃ミッションの信者の子供3人が伊勢神宮参詣を目的にした修学旅行を欠席します。このことを契機に、キリスト教攻撃運動が大垣地方に燃え広がります。保護者に学校から圧力がかかり、警察署が保護者と牧師を呼びつけました。地方新聞が「美濃ミッション撲滅」キャンペーンをはり、3,000人が集まる市民大会で、「教団の活動停止と幼稚園の閉鎖」を決議。その後教団本部に暴徒が押しかけたり、集会では石を投げつけたり。なんと、同じ市内のキリスト教会の牧師が「美濃ミッション」を攻撃しました。この中で信夫さんは、例の地方新聞に「参拝拒否は、日本の文化と歴史を理解していないとたしなめる一方で、キリスト教の教義と国体は両立する。」と述べ、マークされました。

現在では、この考えは体制への妥協と言えるでしょう。賛同しかねます。しかし、当時の日本キリスト教会の考え方でもありました。…今の私は、このことを簡単に批判できませんが、土の器である私たちを通して、主イエスの本当の栄光が表されるようにと願います。

